

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-10		更新日	2025/2/20
サイト名		平安期赤浦海岸から引き上げた薬師如来がご本尊～一畑寺 ^{やくし にょらい いちばたじ}			
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他			
	所在地	出雲市小境町			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング	一畑寺（一畑薬師）			
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場（乗用車200台 バス20台）			
留意点					
サイトの解説	歴史・文化	一畑寺は、通称で一畑薬師と言ひ、島根半島の中心部、標高200メートルの一畑山上にある。「目のお薬師さま」として、古くから全国的に知られ、1,300段余りの石段（参道）でも有名である。宗派は禪宗の臨済宗妙心寺派。創開は、平安時代894（寛平6）年、もともと医王寺と称し天台宗であったが、正中年間1325年に成得寺と改称し臨済宗となり、さらに1653（応正2）年に一畑時と改称した。 一畑山の麓、日本海の赤浦海中から漁師の与市が引き上げた薬師如来をご本尊としておまつりしたのが始まりで、与市の母親の目が開いたことから「目のやくし」として、諸願に靈驗あらたかなお薬師様として篤く信仰されて来た。尼子、毛利、京極、堀尾、松平と代々のこの地の大名から寺領を受け、加護も賜った。ゆかりの品々も多く、寺宝として今日に伝えられている。全国から年間70万人余の参拝があり、日々のご祈念、例月祭、座禅会、団体研修、茶会、奉納音楽祭など年間を通してさまざまな行事がある。			
	地形・地質、生物・生態等	十六島（うつぶるい）から佐陀川にかけての丘陵山地は、島根半島部で最も顕著な地殻変動の跡が残っている場所であり、日本海拡大期の泥岩層が流紋岩の溶岩や火山砕屑岩を伴って褶曲（しゅうきよく）している。一畑寺は西の焼山（やけやま）から続く流紋岩の噴出岩と東の泥岩主体の地層が分布する境界付近の山腹にある。参詣のための長い階段は、高低差150mもある泥岩の中に設けられており、その一定した勾配（およそ30度）にはこのような地質条件が反映されている。 また、一畑寺周辺の森林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「一畑寺照葉樹林」に指定されている。			
写真・図等					
	本堂外観		本堂内部		
参考文献					